

大学生からのメッセージ

「駅伝？」

信州大学 農学部 4年

宮下裕毅

信州大学農学部には「中原寮」という学生寮があり、私もそこで生活をしている。中原寮は「自治寮」と呼ばれる形態の寮であり、寮の運営や管理を学生自身が行っている。寮の規則づくりや行事の企画・運営に加え、掃除や食事の提供なども寮生が主体となって担っている。そのため、一般的な学生寮ではなかなか経験できないような活動が数多く存在する。例えば、年に一度、24時間かけて豚の丸焼きを作る行事がある。また、GPSなどの電子機器を使わず、地図とコンパスだけを頼りに旅をする企画なども行われる。このように、中原寮には少し変わった伝統行事が数多く存在するが、その中でも特徴的なのが「駅伝」である。今回は、この中原寮ならではの駅伝について紹介したい。

駅伝と聞くと、多くの人は箱根駅伝のように、ランナーがタスキをつなぎながらゴールを目指す競技を思い浮かべるだろう。しかし、中原寮の駅伝は一般的な駅伝とは少し異なる。この駅伝では、日本海をスタート地点、太平洋をゴール地点としている。そして、タスキの代わりに日本海でくんだ海水を入れた容器を次の走者へと受け渡していく。つまり、日本海の水を太平洋まで運ぶ「日本縦断駅伝」なのである。

具体的なルートは、新潟県上越市の海岸を出発し、長野県内を横断して静岡県浜松市の海岸へ向かうというものだ。総距離はおよそ400kmにも及び、この道のりを約40名の寮生が5日間かけて走りつなぐ。道中では、信州大学に関わりのあるさまざまな場所を経由する。信州大学は複数のキャンパスに分かれており、それぞれに学生寮が存在するため、他キャンパスや学生寮を訪れながら進んでいく。

先輩方の話によると、道中では声援を受けることも多く、それが大きな励みになったそうだ。また、大学職員の方が飛び入りで一区間を一緒に走ってくれたこともあったという。こうした人とのつながりも、この駅伝の魅力の一つである。一方で、長野県内には峠道が多く、県境を越える場面も多いため、体力的にはかなり厳しい行程となる。期間中は寮生全員で食事を作り、テントで宿泊しながら移動するため、普段の生活では味わえない特別な経験ができるのではないかと期待している。

この駅伝は3年に一度開催される伝統行事であり、30年以上の歴史を持ち、これが今年開催される。私を含め、現在の4年生以下の寮生にとっては初めて参加する駅伝であり、数年ぶりの一大イベントとして寮全体が盛り上がっている。開催は9月を予定しており、すでに準備も始まっている。中には本番に向けてランニングを始めた寮生もいる。先輩方の話では、前回の駅伝では準備段階から本番までさまざまな予想外の出来事が起こったそうで、今年はどのような出来事が待っているのか、楽しみである。

ここまで中原寮の駅伝について紹介してきた。この駅伝は、一見すると非常にばかばかしい行事に思えるかもしれない。実際、「なぜそんなことをするのか」と聞かれても、明確な理由を説明することは難しい。ただ、「運んでみたいから運ぶ」のである。しかし、その過程で多くの人と出会い、普段では得られない経験ができることに価値があるのだと思う。こうした体験は、学生時代だからこそ味わえるものだと思う。ぜひ、皆さんも水を運んでみてはいかがだろう。

【トピック】 トキのえさ場において生き物調査を実施

現在、能登地域（石川県）においてトキの訪鳥のプロジェクト※が取り組まれています。能登町当目地区では、トキの飛来を期待して、休耕田を利用してえさ場を設置しています。

このえさ場に、トキの食べ物となるドジョウなどの生き物がいるか、協会に生き物調査の依頼がありました。生き物調査は石川県立大学能登学生応援隊の協力により実施されました。

調査の結果、地域に生息しないと考えられていたドジョウが確認できました。

※「トキの訪鳥のプロジェクト」石川県、能登地域の市町村、地元団体などが①能登地域でトキを再び野生復帰させるための訪鳥計画、②トキと共生できる農業や里山づくりを進める環境整備、③トキをシンボルとした能登の復興と地域活性化に取り組んでいます。



シマドジョウ

【サークル情報】 秋田県立大学の2つの学生サークルが地域活性化団体とマッチング

地域活性化団体の松ヶ崎最適土地利用協議会（秋田県由利本荘市）及び由利本荘市役所から「大学生サークルと農村マッチング事業」※の依頼があり、秋田県立大学の学生サークルBeginnersと起業サークルI LOVE AKITANPOと松ヶ崎最適土地利用協議会、由利本荘市役所、秋田県由利地域振興局、由利本荘市土地改良区の間でマッチングが行われました。

マッチングでは松ヶ崎最適土地利用協議会から大学生に対して、地域活性化のために応援して欲しい活動内容（①耕作放棄地化を防ぐための農作業の応援、②活動に関しての情報発信、③交流やイベント支援、④PC作業のサポート）が説明され、意見交換が行われました。意見交換では、団体の中心を担っている農業生産法人「折林ファーム」（75haの水田営農）の代表から、農家の高齢化が進む中、耕作放棄地化を防ぐためには、担い手への農地の集約化、農地の大区画の推進が必要であり、そのためには圃場整備の推進が絶対不可欠というコメントがありました。

今回のマッチングの結果、松ヶ崎最適土地利用協議会が希望する活動に対して秋田県立大学の2つの学生サークルが応援することになりました。



マッチングの様子

※「大学生サークルと農村マッチング事業」は、地域おこしのために大学生の応援が欲しい行政、地域おこし団体等と農業農村の応援を目的とした大学生サークルをマッチング

■ 佐貫頭首工（栃木県塩谷郡塩谷町大字佐貫）

佐貫頭首工は、栃木県を流れる鬼怒川に設けられた農業用水の基幹的な取水施設です。

国営鬼怒川中部農業水利事業において、鬼怒川沿いに点在していた複数の取水施設を一つにまとめるために建設され、昭和39年（1964年）に完成しました。

頭首工で取り入れられた水は用水路を通じて鬼怒川中部地域の農地へ送られ、水田や畑の営農を支えています。

また、取水した水は水力発電にも利用されており、水資源の有効利用にも貢献しています。本施設の整備により、安定した取水と効率的な水管理が可能となり、地域農業の発展に大きく寄与しました。

現地では、鬼怒川の流れや取水施設、ゲート設備などを見ることができ、鬼怒川の豊かな水資源を支える施設の役割に触れることができます。



佐貫頭首工



佐貫頭首工の堰体

■ 佐貫石仏（佐貫観音）

佐貫石仏（佐貫観音）は、佐貫頭首工の隣に位置する鬼怒川沿いの岩壁に刻まれた仏像です。平安時代後期に造られたと伝えられ、高さ約64メートルの岩壁に刻まれた姿は地域のシンボルとして親しまれています。

佐貫頭首工を訪れた際には、鬼怒川の景色とともに、長い歴史を伝える佐貫石仏にも立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



佐貫石仏

農業土木技術一プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術一プロの仕事」。今回は排水機場のシミュレーション画像の作成の事例を紹介します。

環境配慮計画(案)を策定するにあたり、改修・更新する排水機場のシミュレーション画像を作成しました。シミュレーション画像は、Photoshopを利用しています。

本レポートでは、シミュレーション画像の作成手順を整理します。近年ではAIでシミュレーション画像を作成できるが、元写真の著作権等を踏まえると、紹介する方法が良いと考えています。

【シミュレーション画像の作成手順】

排水機場は、既設機場の西側に盛土をして、更新排水機場を建設し、稼働後に既設機場を撤去する計画となっている。以下の①～⑥に手順を示します。



既設機
場撤去
新設機
場建設

【①もと風景画像の建物から遠近法の消失点等を確認する】



【②近似する向きの建物の画像を探し、正面壁、側面壁、屋根を分離する】



【③各パーツを合体し、窓やドア、雨樋など不要な画像を、壁の上書きで消す】

【④各画像を使い、二段切妻部分を作成する。】



【⑤撤去する既設排水機場の画像を、背景の空や堤防、林等を使い消去する。】

【⑥既設排水機場の盛土部の擁壁や堤防法面の画像を使い、新規盛土部を作る。完成】

サークル活動紹介

「名城大学 地域共創隊WITH サークル活動紹介」

私たち地域共創隊WITHは、勉強会やボランティアなどを通して学びを深め「学生として地域にできることはなにか」を考え、実践している名城大学の学生団体です。様々な地域でフィールドワークやイベントを実施し、人と人の「つながり」を大切にしながら日々の活動に取り組んでいます。都市情報学部、人間学部、理工学部、農学部など様々な学部の学生が所属しています。それぞれの視点や考え方があることで幅広い学びを得られることが特徴です。

① 定例会

私たちは週一回の定例会を行っています。定例会では市民団体の人と交流を図ったり、地域課題についてメンバー同士で話し合いをしたりしています。今回は5月13日の定例会で行った「関係人口」を学ぶ勉強会をご紹介します。本団体では、「関係人口」をキーワードに活動を行っています。この定例会では「関係人口」とはどんな人口かを事例を交えて説明し、自分たちが今後地域に関わる上で大切な姿勢は何かについて話し合い、新規・既存に関わらずメンバーの「関係人口」についての理解を深めました。



② ワークキャンプ

昨年度私たちは、豊田市旭地区でワークキャンプを実施しました。今年度も引き続きワークキャンプを実施することで、地域と継続的にかかわる方法を模索していきます。ワークキャンプは「合宿型ボランティア」とも表現されます。私たちのワークキャンプでは地域の方の生活の中に入り込んで地域の実情を学びつつ、学生にできることは何かを各々が考えていくものになっています。



③ 竹箒づくりワークショップ

本団体では、竹害（放置竹林などによって起こる問題）の啓発を目的とした竹箒作りワークショップを行っています。また、竹箒作りワークショップは場づくりにもなっています。参加者が輪になって竹箒を作ることで自然と会話が生まれ、交流することができます。竹は愛知県春日井市や三重県桑名市の竹林からいただいております。自分たちが実際に竹林の現状を見ることのほかに、新たなつながりが生まれるきっかけにもなっています。



農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

■日本グラウンドワーク協会公式Instagramにアップしています。

<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

【発行・お問合せ先等】 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324 Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者（大学生等）参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。